

研究発表もうしこみフォーム

氏名: ハスゴワ(哈斯高娃)

氏名のローマ字表記: Hasigaowa

所属: 神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程 D1

専門分野: 歴史学

発表のタイトル: 清代及び中華民国期におけるオルドス地域のキリスト教宣教師たち—引き起こされたトラブルとその解決方法—

発表要旨(600字～800字程度):

本発表では、清末から中華民国期のオルドス地域における裁判関係の公文書史料を利用して、キリスト教宣教師たちと地元のモンゴル人との間で起こったトラブルとその裁判の流れをまとめる。

清朝はモンゴル地域を支配下に入れたが、国家統治のための軍事的貢献に期待していて、その軍事、政治的な同盟関係を確保すべく、巧みな保護政策と統治構造が形成された。清代モンゴルにおける司法、裁判の制度はこのような統治構造を土台にして形成され、清朝政府は遊牧民の持つ独特の生活習慣に応じた法律を作り出した。また、清朝は仏教信仰をも保護したため、清代のモンゴル人社会ではチベット仏教が隅々まで浸透していった。

しかし、清末になるとヨーロッパ列強による侵略やキリスト教の世界戦略に伴って、キリスト教諸宗派の宣教師たちがモンゴル地域にやって来る。清代のモンゴルも、ローマ法王によって1840年には、単独の教区として区分された。「北京条約」や「天津条約」などのいくつかの不平等条約では、宣教師及び信者が清朝政府の保護を受けるように規定され、キリスト教の布教も合法化されて、モンゴル各地で教会や信者の数を増やす試みがなされた。

当初、宣教師たちは遊牧民であるモンゴル人に直接布教しようとしてやって来たが、初期段階で挫折する。チベット仏教への強い信仰の故に、わずかなモンゴル人しか信者にならなかったため、伝道方法を変えてモンゴルへ移住してきた漢人たちに布教すると大きな成功を得るに至った。その際に起こった諸問題の具体的な事例を見ると、宣教師たちが土地を購入して教徒たちに畑を与えたことにより、地元のモンゴル人たちとの間で様々なトラブルが起こっていたことがわかる。本研究では、地元のモンゴル人と宣教師たちが関わったこれらの事件とその裁判の流れを検討する。